

児童氏名: 太郎 児童期 巻読・虐待・非行・育成相談版

学習障害傾向 **あり**

情報源は? C1: 観察 C2: 養育者 C3: 本人 C4: その他
 全般的な知的発達や言葉の発達は正常なのに、ひらがなやかたかなを覚えられなかったり思い出せないことがある
 C4: よくある C3: 時々ある C2: あまりない C1: 全くない C0: 判断困難

全般的な知的発達や言葉の発達は正常なのに、どんなに練習しても漢字が覚えられないことがある
 C4: よくある C3: 時々ある C2: あまりない C1: 全くない C0: 判断困難

全体的な知的発達や言葉の発達は正常なのに、たし算やひき算の繰り上がり・繰り下がりが覚えられないことがある
 C4: よくある C3: 時々ある C2: あまりない C1: 全くない C0: 判断困難

抑うつ傾向 **あり**

情報源は? C1: 観察 C2: 養育者 C3: 本人 C4: その他
 ほとんど一日中いららしたりふさぎこんだりしている
 C4: よくある C3: 時々ある C2: あまりない C1: 全くない C0: 判断困難

学校困難 **あり**

情報源は? C1: 観察 C2: 養育者 C3: 本人 C4: その他
 病気や家庭の事情ではないのに学校を休む
 C4: よくある C3: 時々ある C2: あまりない C1: 全くない C0: 判断困難

学校での孤立感 **あり**

情報源は? C1: 観察 C2: 養育者 C3: 本人 C4: その他
 学校で対象の子どもをいじめる子がいる(ようだ)
 C4: よくある C3: 時々ある C2: あまりない C1: 全くない C0: 判断困難

学校での反社会的行動 **あり**

情報源は? C1: 観察 C2: 養育者 C3: 本人 C4: その他
 学校で誰かをいじめたことがある
 C4: よくある C3: 時々ある C2: あまりない C1: 全くない C0: 判断困難

児童氏名: 太郎 児童期 巻読・虐待・非行・育成相談版

家庭内での暴力 **あり**

情報源は? C1: 観察 C2: 養育者 C3: 本人 C4: その他
 C4: よくある C3: 時々ある C2: あまりない C1: 全くない C0: 判断困難

一だれに: C1: 父親 C2: 母親 C3: 養育者 C4: 祖父 C5: 祖母 C6: その他

児童氏名: 太郎 児童期 巻読・虐待・非行・育成相談版

自己意識・情緒発達 **あり**

自己概念と自己評価 情報源は? C1: 本人 C2: 養育者 C3: その他
 今のままの自分に満足している(ようだ)
 C4: いいえ C3: ややいいえ C2: ややはい C1: はい C0: 判断困難

自己制御性(自己志向性) 情報源は? C1: 本人 C2: 養育者 C3: その他
 目標を持って勉強したり練習することができる
 C4: いいえ C3: ややいいえ C2: ややはい C1: はい C0: 判断困難

情緒表現の発達 情報源は? C1: 本人 C2: 養育者 C3: その他
 親いお話に「かわいそう」「悲しい」など、共感の気持ちを表現する
 C4: いいえ C3: ややいいえ C2: ややはい C1: はい C0: 判断困難

他者との関係性の発達 **あり**

共感性と協働行動 情報源は? C1: 本人 C2: 養育者 C3: その他
 自分からすすんでよく他人を手伝う
 C4: いいえ C3: ややいいえ C2: ややはい C1: はい C0: 判断困難

養育者との関係 情報源は? C1: 本人 C2: 養育者 C3: その他
 ●主たる養育者に対して
 養育者のことを信頼している
 C4: いいえ C3: ややいいえ C2: ややはい C1: はい C0: 判断困難

友だちとの関係 情報源は? C1: 本人 C2: 養育者 C3: その他
 仲の良い友だちが少なくとも一人はいる
 C4: いいえ C3: ややいいえ C2: ややはい C1: はい C0: 判断困難

学校担任教師との関係 情報源は? C1: 本人 C2: 養育者 C3: その他
 困ったことがあると担任教師を頼り、相談する
 C4: いいえ C3: ややいいえ C2: ややはい C1: はい C0: 判断困難

児童期 養護・虐待・非行・育成相談版

児童氏名: 太郎

パート1 子ども

■ I 発達的特徴 知的能力の発達 [あや]

知的能力の発達

知的発達
知的発達の程度
情報源は? : C1: 検査 C2: 養育者 C3: 学校 C4: その他
C4: 遅れている C3: やや遅れている C2: 年齢相当 C1: 年齢以上
C0: 判断困難

学業達成(国語、算数、理科、社会など基礎教科)
情報源は? : C1: 検査 C2: 養育者 C3: 学校 C4: その他
C4: 不良 C3: やや不良 C2: 普通 C1: 良好 C0: 判断困難

■ I 発達的特徴 日常生活能力の発達

日常生活能力の発達

身辺自立の程度
あや | 発達検査「日常生活能力の発達めやす表」(表10)から判断する。
C4: 遅れている C3: やや遅れている C2: 年齢相当 C1: 年齢以上
C0: 判断困難

■ I 発達的特徴 社会的規範意識の発達 [あや]

社会的規範意識の発達

道徳的規範意識 情報源は? : C1: 本人 C2: 養育者 C3: その他
悪いことをしてもみつからなければ済むと考えている
C4: はい C3: ややはい C2: ややいいえ C1: いいえ C0: 判断困難

■ I 発達的特徴 子どもの好きな活動

子どもの好きな活動

子どもの好きな活動
情報源は? : C1: 本人 C2: 養育者 C3: 教師 C4: その他
あや | 「子どもの好きな活動リスト」(表12)から該当する番号を記入する
(複数選択可)。
現在の好きな活動
() () () () ()
過去好きだった活動
() () () () ()

出力形式を選択してください

C1: マル模 C2: フル模

児童氏名: 太郎

児童期 養護・虐待・非行・育成相談版

パートII 家庭

■ II 基本事項 基本事項

基本事項	家計の担当者 就労(生計の確保)に関わっているのは?: C1. 実父 C2. 実母 C3. 養父 C4. 養母 C5. 1.と3. 以外の父 C6. 2.と4. 以外の母 C7. 祖父 C8. 祖母 C9. 生活保護を受けている C10. その他 [] C0. 判断困難
	同居家族 C1. 実父 C2. 養父 C3. 1.と2.以外の父 C4. 実母 C5. 養母 C6. 4.と5. 以外の母 C7. 子ども(対象の子どもを含めて []人) C8. 父方の祖父 C9. 父方の祖母 C10. 母方の祖父 C11. 母方の祖母 C12. 内縁関係の男性 C13. 内縁関係の女性 C14. その他 []

■ II 家族の心身の健康 養育者の身体疾患・障害(主たる養育者について) **あやす**

養育者の身体疾患・障害	身体疾患・障害 情報源は?: C1. 養育者 C2. 診察 C3. その他 C4. 確定診断あり C5. 疑いあり C2. やや疑いあり C1. 疑いなし C0. 判断困難 (具体的に: [])
	身体疾患・障害による養育の困難度 C4. 疾患や障害のために養育できない状態にある C3. 養育はできるものの困難を引き起こしている C2. 多少の困難はあるが養育はできている C1. 養育については問題なし C0. 判断困難

児童氏名: 太郎

児童期 養護・虐待・非行・育成相談版

パートII 家庭

■ II 家族の心身の健康 養育者の身体疾患・障害(その他の養育者について) **あやす**

養育者の身体疾患・障害	身体疾患・障害 情報源は?: C1. 養育者 C2. 診察 C3. その他 C4. 確定診断あり C5. 疑いあり C2. やや疑いあり C1. 疑いなし C0. 判断困難 (具体的に: [])
	身体疾患・障害による養育の困難度 C4. 疾患や障害のために養育できない状態にある C3. 養育はできるものの困難を引き起こしている C2. 多少の困難はあるが養育はできている C1. 養育については問題なし C0. 判断困難

■ II 家族の心身の健康 養育者の精神障害(主たる養育者について) **あやす**

養育者の精神障害	精神障害 情報源は?: C1. 養育者 C2. 診察 C3. その他 C4. 確定診断あり C5. 疑いあり C2. やや疑いあり C1. 疑いなし C0. 判断困難 (具体的に: [])
	精神障害による養育の困難度 C4. 精神障害のために養育できない状態にある C3. 養育はできるものの困難を引き起こしている C2. 多少の困難はあるが養育はできている C1. 養育については問題なし C0. 判断困難

児童氏名: 太郎

児童期 養護・虐待・非行・育成相談版

パートII 家庭

基本事項
 家族の心身の健康
 個々を大切に信頼し...
 安心・調和を基盤にして共...
 基本的な生活を営める

養育者の精神障害(その他の養育者について) **あやす**

養育者の精神障害
 情報源は?: C1. 養育者 C2. 観察 C3. その他
 C4. 確定診断あり C3. 疑いあり C2. やや疑いあり C1. 疑いなし
 C0. 判断困難
 (具体的に: _____)

養育者による養育の困難度
 C4. 精神障害のために養育できない状態にある
 C3. 養育はできるものの困難を引き起こしている
 C2. 多少の困難はあるが養育はできている
 C1. 養育については問題なし
 C0. 判断困難

養育者の心身の健康に関する問題(主たる養育者について) **あやす**

養育者の心身の健康に関する問題
 主たる養育者について
 養育者の家庭内での暴力
 情報源は?: C1. 養育者 C2. 観察 C3. その他
 C4. よくある C3. 時々ある C2. たまにある C1. 全くない
 C0. 判断困難
 一だれに: (C1. 対象の子ども C2. 配偶者 C3. きょうだい C4. 祖父
 C5. 祖母 C6. その他 _____)

養育者の心身の健康に関する問題(その他の養育者について) **あやす**

養育者の心身の健康に関する問題
 その他の養育者について
 養育者の家庭内での暴力
 情報源は?: C1. 養育者 C2. 観察 C3. その他
 C4. よくある C3. 時々ある C2. たまにある C1. 全くない
 C0. 判断困難
 一だれに: (C1. 対象の子ども C2. 配偶者 C3. きょうだい C4. 祖父
 C5. 祖母 C6. その他 _____)

出力形式を選択してください

児童氏名: 太郎

児童期 養護・虐待・非行・育成相談版

パートII 家庭

基本事項
 家族の心身の健康
 個々を大切に信頼し...
 安心・調和を基盤にして共...
 基本的な生活を営める

家族関係(2者関係) **あやす**

家族関係(2者関係)
 主たる養育者が感じている親子関係
 情報源は?: C1. 養育者 C2. 観察 C3. その他
 養育者は、子どもが養育者に十分なついていると感じている
 C4. いえ C3. ややいえ C2. ややはい C1. はい C0. 判断困難

夫婦関係
 情報源は?: C1. 養育者 C2. 観察 C3. その他
 配偶者(パートナー)との生活に満足している
 C4. いえ C3. ややいえ C2. ややはい C1. はい C0. 判断困難

対象の子どもときょうだいの関係 **あやす**

対象の子どもときょうだいの関係
 情報源は?: C1. 養育者 C2. 観察 C3. その他
 かわいがったりめんどうみる、一緒に遊ぶなどの仲の良さがみられない
 C4. はい C3. ややはい C2. ややいえ C1. いいえ C0. 判断困難

安心・調和を基盤にして共に生きる 家族関係の安定性 **あやす**

家族関係の安定性
 家族のまとまり
 情報源は?: C1. 養育者 C2. 観察 C3. その他
 家族みんなで一緒に何かをするのが好きだ
 C4. いえ C3. ややいえ C2. ややはい C1. はい C0. 判断困難

安心・調和を基盤にして共に生きる 家族の問題解決機能 **あやす**

家族の問題解決機能
 問題解決志向性(主たる問題(主訴)に関する家庭の取り組みの姿勢)
 情報源は?: C1. 養育者 C2. 観察 C3. その他
 家族メンバーの今回の主たる問題(主訴)に対する取り組みは:
 C4. 弱い C3. やや弱い C2. ややしっかりしている
 C1. しっかりしている C0. 判断困難

印刷済みの紙を印刷する 印刷済みの紙を印刷する

児童氏名: 太郎

児童期 養護・虐待・非行・育成相談版

パートII 家庭

基本事項

- 家族の心身の健康
- 個々を大切に信頼し、
- 安心・調和を基盤として共
- 基本的な生活を営める

基本事項

- 養育者の身体疾患...
- 養育者の精神障害...
- 養育者の健康に関する...
- 家族関係(2者間の)
- 対象の子どものきょう
- 家族関係の安定性
- 家族の問題解決機能
- 住居の清潔さ
- 家庭の社会・経済的...
- 養育機能

■II 基本的な生活を営める 住居の清潔さ

住居の清潔さ 情報源は?: C1. 養育者 C2. 観察 C3. その他

住居内は清潔に保たれていないで、汚い感じがする
C4. はい C3. ややはい C2. ややいいえ C1. いいえ C0. 判断困難

■II 基本的な生活を営める 家庭の社会・経済的状況

養育者の就労状況(最終学校以降の就労状況と、現在の職種を記入)

あやV 「最終学校以降の就労パターンリスト」(表13)、「職業リスト」(表14)から該当する番号を選んで記入する。

主たる養育者 → 就労パターン 職種

その他の養育者 → 就労パターン 職種

経済的状況(収入、ローン・借金など)

C4. 生活保護を受けている C3. かなり困窮しているようだ
C2. やや困窮しているようだ C1. ともに困窮していない C0. 判断困難

印刷済みの紙を印刷する 印刷済みの紙を印刷する

児童氏名: 太郎

児童期 養護・虐待・非行・育成相談版

パートII 家庭

基本事項

- 家族の心身の健康
- 個々を大切に信頼し、
- 安心・調和を基盤として共
- 基本的な生活を営める

基本事項

- 養育者の身体疾患...
- 養育者の精神障害...
- 養育者の健康に関する...
- 家族関係(2者間の)
- 対象の子どものきょう
- 家族関係の安定性
- 家族の問題解決機能
- 住居の清潔さ
- 家庭の社会・経済的...
- 養育機能

■II 基本的な生活を営める 養育機能

対象の子どもへの基本的ケア

情報源は?: C1. 観察 C2. 養育者 C3. その他

入浴の不足や、衣服や髪が不潔で、清潔の管理に問題がある
C4. はい C3. ややはい C2. ややいいえ C1. いいえ C0. 判断困難

温かい関わり 情報源は?: C1. 観察 C2. 養育者 C3. その他

●主たる養育者
子どもが恐れ、不安がっているときにはやさしくなぐさめている
C4. はい C3. ややはい C2. ややいいえ C1. いいえ C0. 判断困難

●その他の養育者
子どもが恐れ、不安がっているときにはやさしくなぐさめている
C4. いいえ C3. ややいいえ C2. ややはい C1. はい C0. 判断困難

温かい関わり

●その他の養育者
子どもが恐れ、不安がっているときにはやさしくなぐさめている
C4. いいえ C3. ややいいえ C2. ややはい C1. はい C0. 判断困難

過干渉: 養育者の子どもに対するコントロール傾向

情報源は?: C1. 観察 C2. 養育者 C3. その他

●主たる養育者
子どものすることにいちいち口をはさむ
C4. はい C3. ややはい C2. ややいいえ C1. いいえ C0. 判断困難

●その他の養育者
子どものすることにいちいち口をはさむ
C4. はい C3. ややはい C2. ややいいえ C1. いいえ C0. 判断困難

不適切な養育行動 情報源は?: C1. 観察 C2. 養育者 C3. その他

●主たる養育者
子どもを乱暴につかんだりひっぱったりする
C4. はい C3. ややはい C2. ややいいえ C1. いいえ C0. 判断困難

●その他の養育者
子どもを乱暴につかんだりひっぱったりする
C4. はい C3. ややはい C2. ややいいえ C1. いいえ C0. 判断困難

下へ 上へ

出力形式を選択してください

① ニュース紙 C フォルダ

印刷済みの紙を印刷する 印刷済みの紙を印刷する

児童氏名: 太郎

児童期 養護・虐待・非行・育成相談版

パートII 家庭

基本事項

- 家族の心身の健康
- 個々を大切に信頼し、
- 安心・調和を基盤として共
- 基本的な生活を営める

基本事項

- 養育者の身体疾患...
- 養育者の精神障害...
- 養育者の健康に関する...
- 家族関係(2者間の)
- 対象の子どものきょう
- 家族関係の安定性
- 家族の問題解決機能
- 住居の清潔さ
- 家庭の社会・経済的...
- 養育機能

主たる養育者の子育てストレス

情報源は?: C1. 養育者 C2. 観察 C3. その他

子育てがうまくいかなかったり、無気味に感じている
C4. はい C3. ややはい C2. ややいいえ C1. いいえ C0. 判断困難

主たる養育者の子育て相談相手・預け先

情報源は?: C1. 養育者 C2. 観察 C3. その他

あやV 対象は「子育ての相談相手・預け先リスト」(表15)から該当する番号を選んで記入する(複選可)。

●主たる養育者の子育ての相談相手
だれ? () () () ()

●子どもを預かってくれる対象
だれ? () () () ()

子育てのサポートに対する主たる養育者の主観的評価

情報源は?: C1. 観察 C2. 養育者 C3. その他

子どものことを気軽に相談できる相手がいなくて不安に感じている
C4. はい C3. ややはい C2. ややいいえ C1. いいえ C0. 判断困難

印刷 印刷 印刷 印刷 児童氏名: 太郎 児童氏名: 太郎 原登期 養護・虐待・非行・育成相談版 保存	
パートⅢ 地域	
■ 健全な養育環境を持つ地域社会 近隣コミュニケーション	近隣コミュニケーション 対象家族の地域交流(近所付き合) C4: ほとんど(孤立している) C3: やや少ない C2: 時々交流している C1: 活発に交流 C0: 判断困難
■ 健全な養育環境を持つ地域社会 居住地の子育て関連状況	居住地の子育て関連状況 安全性(交通面、防犯性) C4: 危険 C3: やや危険 C2: 比較的安全 C1: 安全 C0: 判断困難
■ 関連施設(福祉・保健・教育) 家庭外の教育施設の種類	家庭外の教育施設の種類 現在通っている学校環境の適切さ(対象の子ども本人に尋ねる) 授業中クラスは静かで、落ち着いて勉強できる C4: いいえ C3: ややいいえ C2: ややはい C1: はい C0: 判断困難 学校と家庭(養育者)との連携の状況 情報源は?: C1: 養育者 C2: 親類 C3: その他 養育者は子どもの教育を学校に十分におこなってもらえていると感じている C4: いいえ C3: ややいいえ C2: ややはい C1: はい C0: 判断困難
■ ソーシャルサポート サポートの資源	サポートの資源 支援してくれる人の有無と見込み ※「子育ての相談相手・預け先リスト」(表15)から該当する番号を1つ選んで記入する。 現在支援をしてくれている人: (<input type="checkbox"/>) 支援してくれそうな人(期待できる人): (<input type="checkbox"/>)

印刷 印刷 印刷 印刷 児童氏名: 太郎 児童氏名: 太郎 原登期 養護・虐待・非行・育成相談版 保存	
■ ソーシャルサポート サービスの活用状況	
サービスの活用状況	利用可能なおもな子育てサービス・支援機関の有無とその利用度 情報源は?: C1: 養育者 C2: その他 ※「子ども・家庭に対する地域の支援機関リスト」(表16)および「子育て関連事業リスト」(表17)から該当する番号を選んで記入する。(複数選択可) 1. 利用・参加経験あり (<input type="checkbox"/>) (<input type="checkbox"/>) (<input type="checkbox"/>) 2. 今後の利用・参加を希望するもの (<input type="checkbox"/>) (<input type="checkbox"/>) (<input type="checkbox"/>) (<input type="checkbox"/>) 各種手当ての利用状況 C1: なし C2: あり: 下記の中から該当するものを選択する(複数選択可)。 C1: 生活保護 C2: 児童手当 C3: 児童扶養手当 C4: 特別児童扶養手当 C5: 障害児福祉手当 C6: 母子寡婦福祉手当 C7: 施設退所児童等に対する就職・就学を促進するための生活福祉資金の貸付け C8: その他 <input type="text"/>

厚生労働科学研究費補助金
総括研究報告書

厚生労働科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)
総括研究報告書

Ⅱ. 要保護児童のための“子どもと家庭を対象とした総合評価票”
の活用に関する研修について

主任研究者 菅原ますみ (お茶の水女子大学大学院・人間文化研究科・助教授)

試作された子ども家庭総合評価票および自立支援計画票を、要保護児童に対する今後の自立支援や発達支援、将来の問題発生の予防に役立てるために、今年度は研修のカリキュラムを作成し、その試行的実施をおこなった。

研修先および研修のプログラムは以下のとおりである：

<試行研修先>

* 第1回目：平成17年5月29日(火)
全国児童相談所所長会議

(会場：厚生労働省)

* 第2回：平成17年6月2日(木)
全国児童自立支援施設新任児童自立支援専門員研修 (会場：国立武蔵野学院研修棟)

* 第3回：平成17年9月5日(月)
全国児童自立支援施設中堅職員研修
(会場：国立武蔵野学院研修棟)

* 第4回：平成17年12月9日(金)
西多摩地区児童福祉施設員研修
(会場：恵明学園)

<研修プログラム>

I・講義

1. 子どもの発達と問題のアセスメントについて
2. 子どもの適応状態の評価
3. 子ども家庭総合評価票の背景
4. 子ども家庭総合評価票の実際

：構成、開発状況、評価票による虐待ケースの特徴抽出、スコアシート
の解説など

Ⅱ. 実習

5. 児童期版を使用した記入の実習
6. 今後の検討課題などについて
7. 質疑応答

資料を次ページより添付した。

子ども家庭総合評価票の活用に関する研修資料

1. 講義用レジュメ
2. 実習用評価票・総括シート・支援計画票

子どものアセスメントについて
- 子どもと家庭を対象とした総合評価票 -

お茶の水女子大学 心理学講座
菅原ますみ

★ 子どもの発達のアセスメント ★

* アセスメントのポイントとなるもの *

:発達の“正常範囲(normality)”と異常範囲(abnormality)”の見極め: 両者は光と影で、両者を知らないどどちらを定義することも困難。

Point1: 子どもの主要発達領域での発達変化の様相と基準値(標準的な発達の進み方)を知る

Point2: 子どもの社会適応の観点から“異常範囲”を知る ⇒ どこからを“問題”として介入や援助の対象とするか?

2

Point 1 : 子どもの発達の主要領域(1)

- ① からだの発達: 身体サイズ(body size)、発育のスパートや第二性徴などの思春期の訪れ(puberty development)
- ② 身体運動能力の発達: 微細運動(手先の器用さ)と粗大運動(体全体の運動)
- ③ 知的・認知的発達: 外界の知覚や学習能力、言葉、思考などの基本的な認識能力の発達
- ④ 情緒的発達: 様々な情緒そのものの発達と情緒の自己統制力(セルフコントロール)の発達

3

Point 1 : 子どもの発達の主要領域(2)

- ⑤ 自己意識の発達: 自己認識(“自分”という概念)や自己概念の発達、アイデンティティの獲得
- ⑥ 社会性(sociability: 他者と関わる力)の発達
 - * 基本的な対人関係能力の発達: コミュニケーションの道具としての言語や身振り行動の発達、共感性の発達(他者の視点の獲得: “心の理論”)
 - * 社会集団中での意識と行動の発達: 社会的ルール(慣習+法律)や生活習慣の獲得、道徳性の発達、性同一性や性役割の発達、市民性(citizenship)の発達、職業意識の発達、メディアリテラシーの発達、科学性や国際性、エコロジー感覚(“地球の一員”)の発達など。

4

Point 2 : 適応状態の評価

* 異常範囲を知る: どこからを問題として介入や援助の対象とするか?

⇒ 近年の精神医学的観点: 個人の適応をその人が置かれた環境の中での“機能不全状態(dysfunction)”に陥っているかどうかで判断していく

⇒ “当人もしくは当人の所属する集団が、当該の問題行動や精神症状のために困り、もはや通常の活動を果たしえなくなったとき”(不適応ライン)

5

子どもの発達のメカニズム

<発達: 個体側の要因 × 環境要因>

→ 両者の時系列的相互影響過程 (transactional process) の中で発現していく。

“どのような特徴が、どの環境要因と、いつ、どのように?”



* 新生児期から特徴あり

* 家庭要因

: 家族関係、文化的・物理的要因

* 家庭外要因

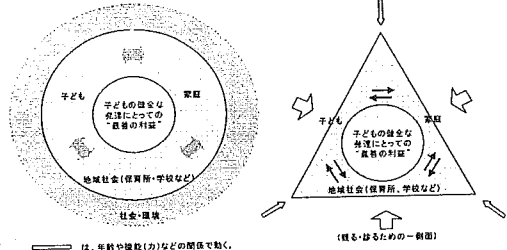
: 学校、地域の対人的・物理的要因

6

子ども家庭総合評価票の実際

★子ども家庭総合評価票の評価対象★

図1 子どもの健全な発達のための実態把握・評価(アセスメント)に関して
子どもの健全な発達のための基本的構造

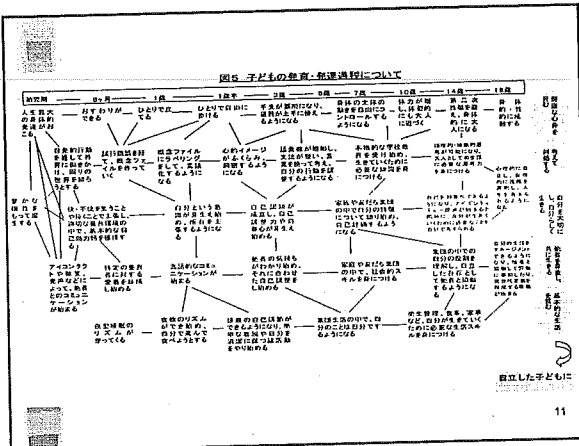


★ 子どもと養育環境を 評価(アセスメント)することの目的 ★

- 1) “問題 (problem)” を早期に的確に見立てる
- 2) “問題 (problem)” の背景と原因をできるだけ正しく理解する
⇒ ケースの持つ“困難さ(Difficulty)”の把握
- 3) “問題 (problem)” を解決したり、進行を防ぐために役立つ資源を子ども自身そして養育環境の中に探していく
⇒ ケースの持つ“強み(Strength)”の把握

★ “子ども家庭総合評価票(第1版)” の作成過程 ★

- 1) 先行諸研究の検討 ⇒ 海外や日本での介護や看護などの他領域での評価システムの探究
- 2) 3つの領域(パート)の評価項目の作成
 - パートI: 子ども自身の心身の発達と健康に関する諸側面
⇒ 発達の遅れ(delay)や歪み(abnormality)がないかどうか、また、どのような特徴を持っているか
 - ＜評価の側面＞ 心身の健康度、心身の発達の特徴、行動特徴(気質的・性格的特徴)、趣味や好きな活動など



2) 3つの領域(パート)の評価項目の作成

- パートII: 子どもが生活する家庭の諸側面
⇒ 子どもの健やかな発達を支える家庭養育環境であるかどうか
- ＜評価の側面＞
養育者の心身の健康度、家庭の社会経済的状況、養育機能(養育者の養育行動、子育てサポート状況、家族関係(親子、夫婦、きょうだいなど)、家族機能(凝集性や問題解決力など))

2) 3つの領域(パート)の評価項目の作成

- パートⅢ:子どもが生活する地域社会の諸側面
- ⇒ 子どもの健やかな発達やそのために必要な家庭を支えることができる養育環境であるかどうか

<評価の側面>

健全育成性、近隣とのコミュニケーション、サポート資源(人的・機関/制度的)、保育・保健・教育機関との連携状況など

13

3) 試行調査

★ 今回の評価票 → “児童相談所用”

:児童相談所や評価票を利用・共有する可能性を有する児童福祉諸施設にご意見を頂戴しながら作成・精練していきたい

- ⇒ ① 2回の児童相談所へのモニター調査(試作版・今年度完成版、162ヶ所)、② 2回の児童福祉施設での調査(設定項目の背景尺度に関する調査:269施設・0歳~18歳まで、計8390名、完成版に関するモニター調査225ヶ所)、③ 児童相談所児童福祉施設などの専門職の方々へのヒアリング

14

4) 子ども家庭総合評価票第1版の作成

★ 試行調査の結果(項目の相談種別重要度評価、付加項目、試作版のモニタリング)と児童自立支援計画研究会での検討を経て、評価票10種(総括一覧スコアシート付)と記入のめやすと一覧表(全種共通)を作成

⇒ <乳児期(0~2歳未満)・幼児期(2~就学前)・児童期(小学1年~4年)・思春期(5年~中学3年)・青年期(中卒~18歳)>

× <養護・虐待・非行・育成>
<障害・保健>

15

★ 試行調査の結果:虐待ケースの特徴★

<乳児版>

	虐待ケース(SD)		非虐待ケース(SD)		t値
あざ	1.40	(0.79)	1.02	(0.15)	3.22 **
笑顔を見せない	1.22	(0.63)	1.00	(0.00)	2.57 *
あやしても喜ばない	1.28	(0.74)	1.00	(0.00)	2.77 *
知らんふりをする	1.26	(0.62)	1.02	(0.15)	2.70 *
抱っこされると喜ぶ	3.22	(0.93)	3.63	(0.85)	-2.20 *
健診での問題の指摘	1.31	(0.47)	1.08	(0.27)	2.98 **
丁寧な応答	2.50	(1.02)	3.03	(1.08)	-2.15 *
無視・拒否	2.07	(1.09)	1.56	(0.91)	2.13 *
近隣トラブル	2.07	(1.14)	1.20	(0.63)	2.39 **

16

<幼児版(その1)>

	虐待ケース(SD)	非虐待ケース(SD)	t値
あざ	1.38 (0.82)	1.04 (0.20)	2.95 **
養育者に警戒	1.79 (0.95)	1.41 (0.79)	2.22 *
養育者を頼りに戻ってくる	2.94 (1.09)	3.40 (0.80)	-2.38 *
抱っこされると喜ぶ	3.18 (0.99)	3.55 (0.77)	-1.91 †
主たる養育者との愛着形成	2.02 (0.91)	1.60 (0.74)	2.53 *
きょうだい仲	2.19 (1.14)	1.57 (0.94)	2.24 *
家族の相互援助	2.15 (0.99)	2.77 (1.09)	-2.44 *
清潔の管理	2.00 (1.18)	1.54 (0.91)	2.05 *
栄養管理	2.53 (1.28)	1.77 (1.07)	3.02 **

17

<幼児版(その2)>

	虐待ケース(SD)	非虐待ケース(SD)	t値
しつけの重要性	2.30 (1.23)	1.61 (0.84)	3.05 **
やさしくなくさめる	2.53 (1.08)	3.18 (0.87)	-3.07 **
気持ちを察する	2.51 (1.06)	3.00 (0.89)	-2.37 *
適切な応答	2.34 (1.08)	2.85 (0.94)	-2.39 *
乱暴な扱い	2.02 (1.12)	1.52 (0.80)	2.36 *
賢ずり・侮辱的な言葉をかける	2.00 (1.15)	1.40 (0.74)	2.83 *
近隣からの孤立	3.50 (0.76)	2.83 (1.03)	2.66 *
文化的環境	2.95 (0.49)	2.53 (0.51)	2.73 *

18

<児童期(その1)>

	虐待ケース(SD)	非虐待ケース(SD)	t値
あざ	1.41 (0.74)	1.13 (0.41)	2.50 *
身体疾患の治療	2.43 (0.88)	2.85 (0.49)	-2.28 *
養育者に警戒	2.21 (1.03)	1.45 (0.77)	4.37 **
複雑なつき方	2.56 (0.92)	2.00 (0.88)	3.25 **
かんしゃくを起こす	2.96 (0.67)	2.70 (0.84)	1.76 †
気が散りやすい	2.93 (0.94)	2.60 (0.89)	1.87 †
落ち着きがない	2.84 (0.96)	2.46 (1.03)	2.07 †
そわそわ・もじもじ	2.69 (0.91)	2.36 (0.91)	1.90 †
感想を言う	2.95 (0.80)	3.30 (0.88)	-2.02 *

19

<児童期(その2)>

	虐待ケース(SD)	非虐待ケース(SD)	t値
養育者のごとを信頼	2.80 (1.06)	3.23 (0.65)	-2.52 *
養育者から信頼されている	2.52 (1.11)	3.00 (0.77)	-2.39 *
養育者はわかってくれる	2.37 (1.01)	2.89 (0.76)	-2.79 **
主たる養育者との愛着形成	2.14 (0.97)	1.67 (0.66)	2.66 **

20

<思春期(その1)>

	虐待ケース(SD)	非虐待ケース(SD)	t値
あざ	1.40 (0.76)	1.13 (0.40)	2.66 **
性体験	1.07 (0.26)	1.27 (0.45)	-3.35 **
精神疾患	1.83 (1.19)	1.40 (0.91)	2.37 *
気が散りやすい	2.58 (0.95)	2.28 (0.97)	2.09 *
学校を休む	1.54 (0.85)	1.97 (1.18)	-2.84 **
養育者のごとを信頼	2.20 (1.03)	2.54 (0.92)	-2.30 *
養育者から信頼されている	2.04 (0.89)	2.30 (0.99)	-1.70 †
養育者はわかってくれる	1.97 (0.94)	2.29 (0.88)	-2.20 *
教師を頼る	2.51 (0.96)	2.13 (0.97)	2.53 *
教師の言うことをきく	2.75 (0.93)	2.45 (0.98)	2.05 *
教師のことが好き	2.69 (0.93)	2.40 (0.99)	1.84 †
悪いことへの予期不安	2.47 (0.97)	2.20 (0.89)	1.89 †

21

<思春期(その2)>

	虐待ケース(SD)	非虐待ケース(SD)	t値
家族の相互援助	1.80 (0.86)	2.34 (0.91)	-3.45 **
家庭はほっとできる	1.45 (0.75)	2.28 (0.97)	-5.42 **
主たる養育者の家庭重視度	2.53 (1.07)	2.09 (1.00)	2.35 *
家族の問題への取り組み	3.33 (0.86)	2.88 (0.99)	2.92 **
清潔管理	2.15 (1.16)	1.65 (0.91)	2.92 **
やさしくなくさめる	1.98 (1.10)	2.47 (0.89)	-2.85 **
気持ちを察する	2.02 (1.09)	2.47 (0.87)	-2.79 **
ていねいな応答	1.86 (1.01)	2.20 (0.84)	-2.20 *
口をはさむ	2.64 (1.04)	2.34 (0.95)	1.76 †
自由を束縛	2.57 (1.13)	2.15 (0.91)	2.32 *
コントロールする	2.45 (1.08)	2.05 (0.88)	2.31 *
乱暴な扱い	2.33 (1.31)	1.65 (0.90)	3.59 **
無視・拒否	2.68 (1.13)	1.85 (0.93)	4.90 **
脅す・侮辱的な言葉をかける	2.66 (1.17)	1.96 (1.03)	3.79 **
近隣からの孤立	3.55 (0.70)	3.07 (0.80)	3.35 **
クラスは静か	2.86 (0.98)	2.41 (0.94)	2.52 *

22

<青年版>

	虐待ケース(SD)	非虐待ケース(SD)	t値
食欲がない	1.94 (0.93)	1.56 (0.74)	2.529 *
養育者のごとを信頼している	2.14 (1.15)	2.51 (1.13)	-1.787 †
養育者はわかってくれる	1.78 (1.12)	2.18 (1.12)	-1.977 *
家族の相互援助	1.20 (1.02)	1.66 (1.26)	-2.214 *
やさしくなくさめている	1.60 (1.12)	2.11 (1.31)	-2.235 *
気持ちを察する	1.76 (1.06)	2.22 (1.25)	-2.16 *
ていねいな応答	1.64 (1.03)	2.05 (1.30)	-1.895 †
自由を束縛	2.25 (1.40)	1.52 (1.07)	3.175 **
コントロールする	2.20 (1.38)	1.43 (1.08)	3.325 **
脅す・侮辱的な言葉をかける	2.00 (1.48)	1.47 (1.11)	2.137 *
養育者の教師からの信頼	1.35 (1.44)	1.89 (1.60)	-1.719 †
養育者の教師への信頼	1.49 (1.53)	2.32 (1.53)	-2.703 **

** p<.01; * p<.05; † p<.1

23

★ 検討課題 ★

- 1) 記入・スコアリング・集計・解析に関する コンピューター・システムの開発
⇒ ケースごとのプロフィールシート・各セクションごと集計(施設、行政区、全国)、経年変化やリスク要因および防御要因などの解析
- 2) 項目内容、記入方式の検討
⇒ 項目の妥当性や年齢適切性、社会変化への対応の検討など、数年間隔での見直しと改訂が必要
- 3) 入所施設でのアセスメントにどう対応していくか?

24

★ 本評価票の利用について ★

- ① 学術的側面
 - * 我が国の子どもたちが抱える問題のよりの確な実態把握 → データ・ベース化
 - * リスク要因と防御要因の探究
 - * 問題発現のメカニズムや解決過程の検討
- ② 社会的側面
 - * 情報収集の枠組みの提供
→ 新人研修やプライマリ・ケア時での活用
 - * 経年変化の分析や処遇の効果測定への利用
 - * 広範囲な現場での評価の観点や測定ツールの共有化に貢献可能なのではないか

25

子どもの不適応の発達と養育環境
— 子ども家庭総合評価票の背景: 発達精神病理学的視点から —

発達精神病理学の研究パラダイム(1)

- 1990年代以降、発達研究の1領域として発展
→ Developmental Psychopathology (Cicchettiら 1995; Cummingsら, 2002)
- 目的: 1) 不適応行動の発達の起源
2) 発達のコース: 発現・経過・回復の多様なパターン
3) 発達のメカニズム: リスクとレジリエンス
- 特徴: * 不適応な発達と適応的な発達の両者を射程に入れていること:
* 疾患や問題は固定的なものではなく、発達過程での“状態”とみる

27

発達精神病理学の研究パラダイム(2)

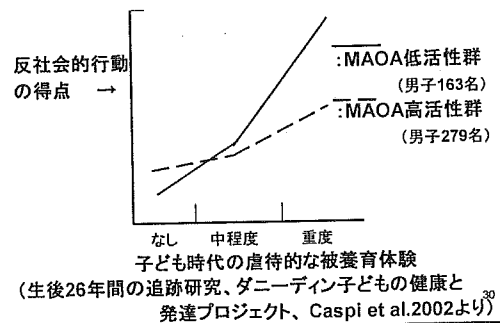
- 不適応出現の関連因子(risk factors)の特定
→ Developmental Epidemiology (疾患も・個人も・家族も発達する)
- Protective process (防御過程)の探求
 - ハイリスク群
 - a) 適応成功 → 防御因子の抽出 (protective factors)
 - b) 不適応行動の出現
 - 統制群
 - c) 適応成功
 - d) 不適応行動の出現 → 新たなリスクパターンの検討²⁸

“遺伝子—脳—行動”

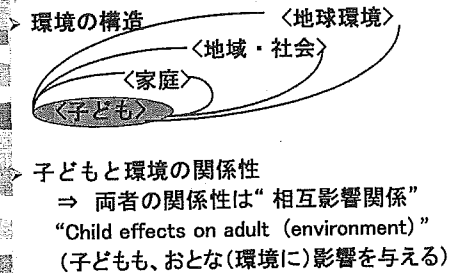
* 様々なレベルでの環境の影響

- <行動レベル>
行動スタイル(表現型: フェノタイプ)
× 体験・認知・学習の対象としての環境 (マクロな自然、物理的、対人的環境)
- <脳レベル>
脳神経システム(フェノタイプ) × 脳内の生化学的環境 (メゾな体内環境: マクロな環境の影響を受ける)
- <細胞レベル>
遺伝子(ジェノタイプ) × 情報発現に関わる分子生物学的・生化学的環境 (ミクロな染色体内および細胞内環境: マクロ・メゾな環境の影響を受ける)²⁹

環境要因の影響の大きさ
: 海外大規模長期縦断研究の結果から



子どもをとりまく環境要因の多様さ



31

子どもの発達と関連する養育環境要因

- (1) 養育者のパーソナリティ要因
- (2) 養育者の精神的安定に関する要因
: ストレス度や様々な心身の疾患など
- (3) 養育方法の要因
: 睡眠・食事・清潔・着衣などの基本的な生活習慣の獲得のさせ方、規則や道徳などの社会的ルールの獲得のさせ方、子どもの感情表現に関するしつけ方など

32

(4) 養育者の養育態度・行動の要因

: 日常的な子どもとのコミュニケーションの際に親が示す態度や行動の要因。具体的な行動の頻度や内容、一般的な態度として支配的か放任的か、あるいは拒否的か受容的か、一貫性や矛盾の有無など。

(5) 養育者の教育的・文化的水準の要因

: 教育や教養の程度、教育観や子ども観などの信念体系など。

33

(6) 家庭の社会経済的要因

: 養育者の就労の有無、職種、収入、居住条件、家庭が保有する教育関連資源の種類など

(7) 家族構成と家族関係の要因

: 核家族か多世代同居か、きょうだい数、出生順位、夫婦間や親子、嫁姑などの家族間の役割分担や人間関係のあり方、勢力関係など

34

* 発達初期での母親の就労は子どもに本当に悪い影響をあたえるか? *

- 1980年代以降の実証研究に基づくこれまでのところの発達心理学領域での見解
- “就労の有無”のみによる青年期までの子どもの知的、言語的、コミュニケーション、問題行動などの発達に対する否定的な影響は総じて認められていない。
- これらの発達に影響するのは“家庭内外での養育の良質さ(child care quality: 応答性の良さ、温かさ、コミュニケーションの豊富さ)である”という点でほぼ一致。

(8) 友人集団と友人関係の要因 ★

: 発達段階ごとの友人関係や、友人集団における地位や勢力関係など。異性関係要因も含まれる。

(9) 保育・教育機関に関連する要因

: 保育や学校の制度的要因、保育・教育方法と内容、保育士や教員の資質や子どもとの関係性、クラス集団のあり方など。

(10) 職業の要因 (青年期以降)

: 勤務先、職種、収入、職場での地位や人間関係など。

36

- (11) 居住地域の要因
 : 都市部か郊外・村落地域か、商工業地区か住宅地区か、新興地域か伝統的地域かなど。
- (12) 所属集団に共通な社会文化的要因
 : 言語、宗教、マスメディア、法律、社会制度、教育制度など。様々なステレオタイプの価値観も含まれる。
- (13) 自然環境要因
 : 地理的要因、気候的要因、水銀やダイオキシンなどの環境汚染物質にさらされているかどうかなど。

37

養育環境と子どもの発達との関連についての多変量生態学的モデル

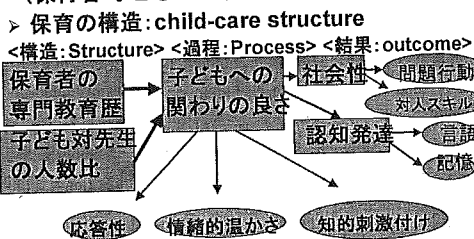
Structure ↔ Process ↔ Outcome
 (環境の構造的要因) (相互作用過程) (発達変数)

- | | |
|-------------------------|----------------|
| ・教育者の専門教育の程度 | ・心身の健康 |
| ・教育や学校の制度 | ・認知発達 |
| ・養育者や教育者の子ども観
や理解の程度 | ・社会性 |
| ・家庭の社会文化的状況
など | ・問題行動の
発達など |

38

NICHD :Early Child Care Research Network (2002) の結果から

(保育者-子どもの比率、保育者の教育水準)



39

子どもの個性と社会適応との関係

- * 個性をめぐる“価値”の問題: 個性に対する評価は、その人が置かれた状況との“適合の良し悪し(goodness of fitness: 環境との相性)”に依存する、相対的なものにすぎない。
 ⇒ どんな個性にも長所と短所あり。弱みを適切に理解し、サポートすることによって“個性を吉と出す”ことが重要。
- * 社会適応との関連が問題になるとき: 当人もしくは当人が所属する集団が、その行動特徴のために困り、通常の活動を果たし得ないという問題が生じたとき
 ⇒ 機能不全(dysfunction)状態

40

問題を適切に理解することの重要性

- <例えば、“不登校”の背景には - >
- ▷ 学校不適応、家庭でのトラブルなどのストレスによる精神的不調
 - ▷ 多様な精神疾患が存在することもあり
 - * 分離不安障害 → 愛着対象からの分離に対する強度の不安から登校できない
 - * うつ病 → 落ち込み感や気力の減退から行かなくてはいけないと思いつつも登校できない
 - * 反抗挑戦性障害 → 先生や友達とのトラブルで学校がつまらなくなり、怠学気分から登校しない など。
- ⇒ 対応の仕方もそれぞれに異なるので、早い段階での的確な見立てが重要。

41

< 子どもの精神疾患の分類と診断 >

- ★ 重症化した形態: “精神疾患”(mental disorders)
 ↓
 “著しい機能不全状態”
- ★ 子どもの精神疾患に関する分類や診断の基準化に関する研究は、1980年代後半から本格化
 ⇒ 精神科診断基準 (psychiatric diagnostic criteria)
- ★ 代表的精神科診断基準
- ① アメリカ精神医学会による診断基準
 < Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders 4th ed. [DSM-IV], 1994; DSM-IV-TR, 2000 >
- ② 世界保健機構 (WHO) による診断基準
 < International Statistical Classification of Diseases, 10th revision [ICD-10], 1993 >

42

< 主な子どもの精神障害: DSM-IVより >

① 発達障害系

- 精神遅滞: Mental Retardation [MR]
- 学習障害: Learning Disorders [LD]
→ 読字障害、書字表出障害、算数障害
- 広汎性発達障害
: Pervasive Developmental Disorders [PDD]
→ 自閉性障害、レット障害、小児期崩壊性障害、アスペルガー症候群
- 発達性協調運動障害(協調運動の発達不全)
- コミュニケーション障害(音韻、吃音などの言葉や会話の問題)

43

② 行動障害系

- 注意欠陥・多動性障害:
Attention Deficit/Hyperactivity Disorder [ADHD]
→ 不注意優勢型、多動-衝動性優勢型、混合型
- 行為障害: Conduct Disorder [CD]
→ 頻繁で重篤な反社会的行動の出現
- 反抗挑戦性障害
: Oppositional Defiant Disorder [ODD]
→ 他者に対する極度の拒絶的・反抗的言動の出現

44

③ 情緒障害系

- ・ 不安障害系
→ パニック性障害、全般性不安障害、強迫性障害、外傷後ストレス性障害: Posttraumatic Stress Disorder [PTSD]、各種恐怖症: Phobia
- ・ 分離不安障害: Separation Anxiety Disorder
- ・ 気分障害系
→ 大うつ病性障害: Major Depressive Disorder, 気分変調性障害: Dysthymic Disorder, 双極性 I 型・II 型障害: Bipolar I or II Disorder (躁病エピソード: Manic Episode を伴うもの)

45

④ 幼児期・児童期・思春期・青年期に発症するその他の精神障害

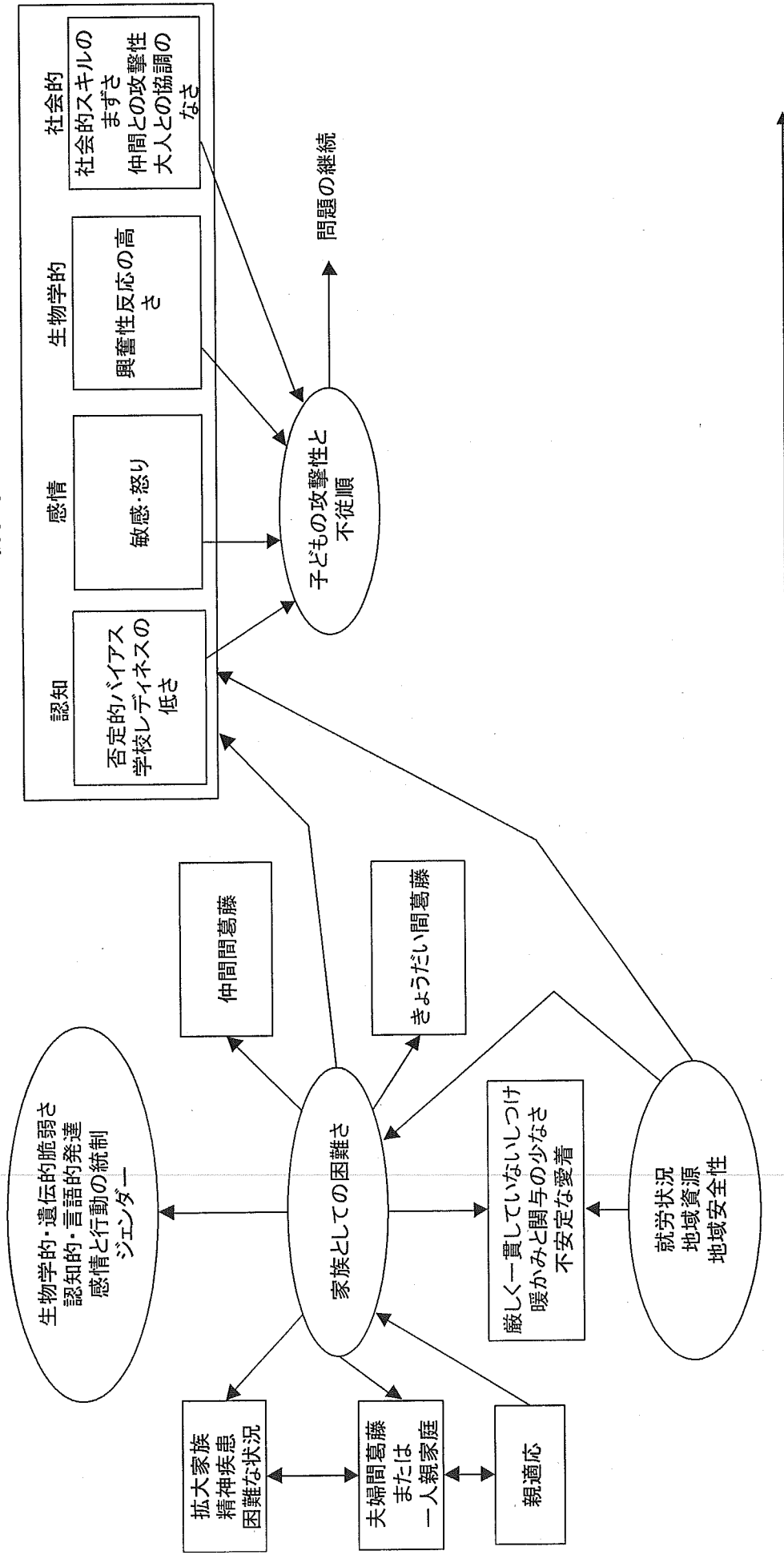
- 摂食、睡眠、排泄などに関する特異的問題行動群
- ・ 早期の哺育・摂食障害(異食症: Pica、反芻性障害など)、摂食障害: Eating Disorders (神経性無食欲症と神経性大食症)、
- ・ 排泄障害(遺糞症、遺尿症)
- ・ その他 選択的緘黙: Selective Mutism、常同運動障害、性障害および性同一性障害、睡眠障害など

46

攻撃性の発達

就学時の子どもの心理学的機能

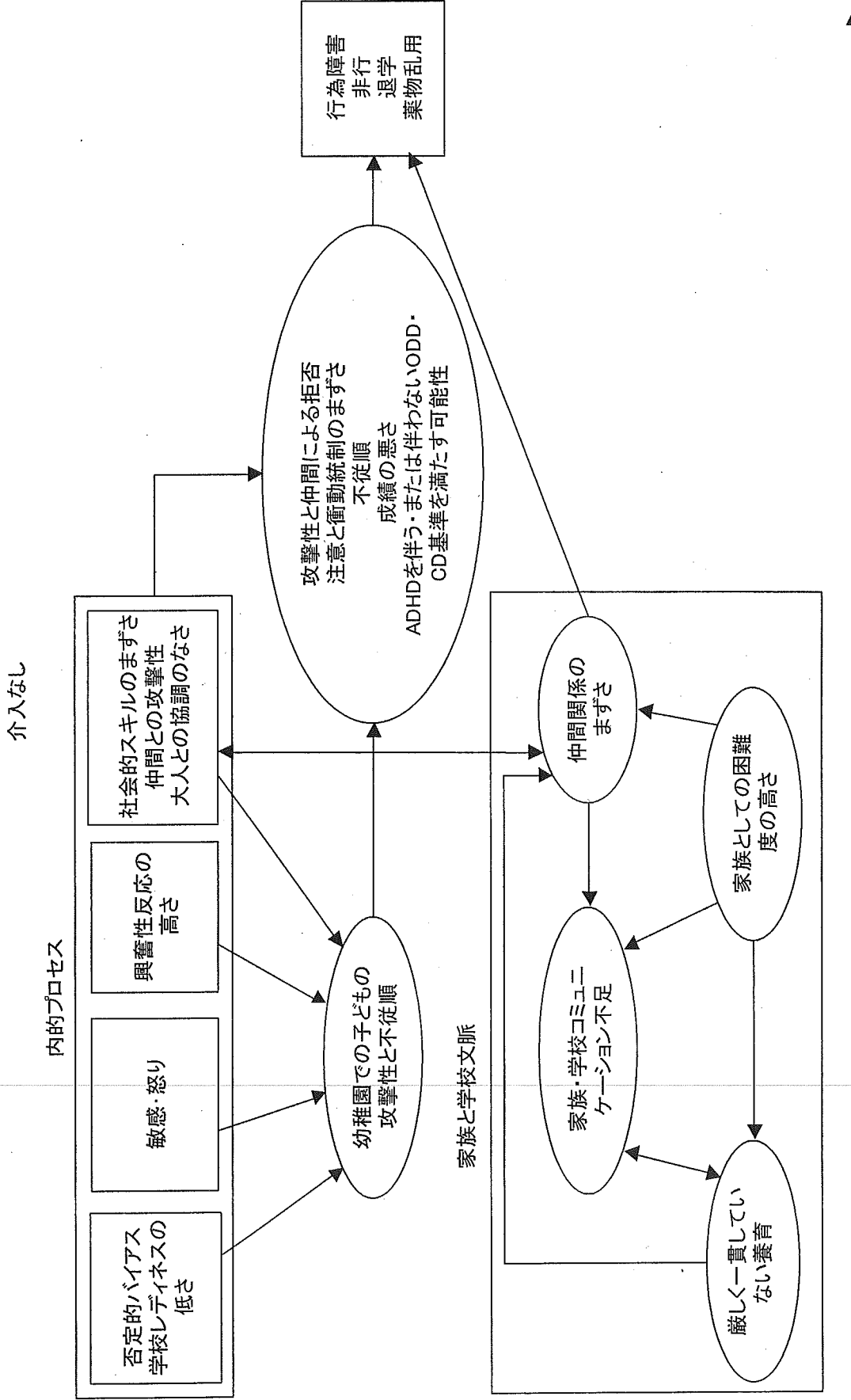
児童期早期の要因



児童期早期

就学時

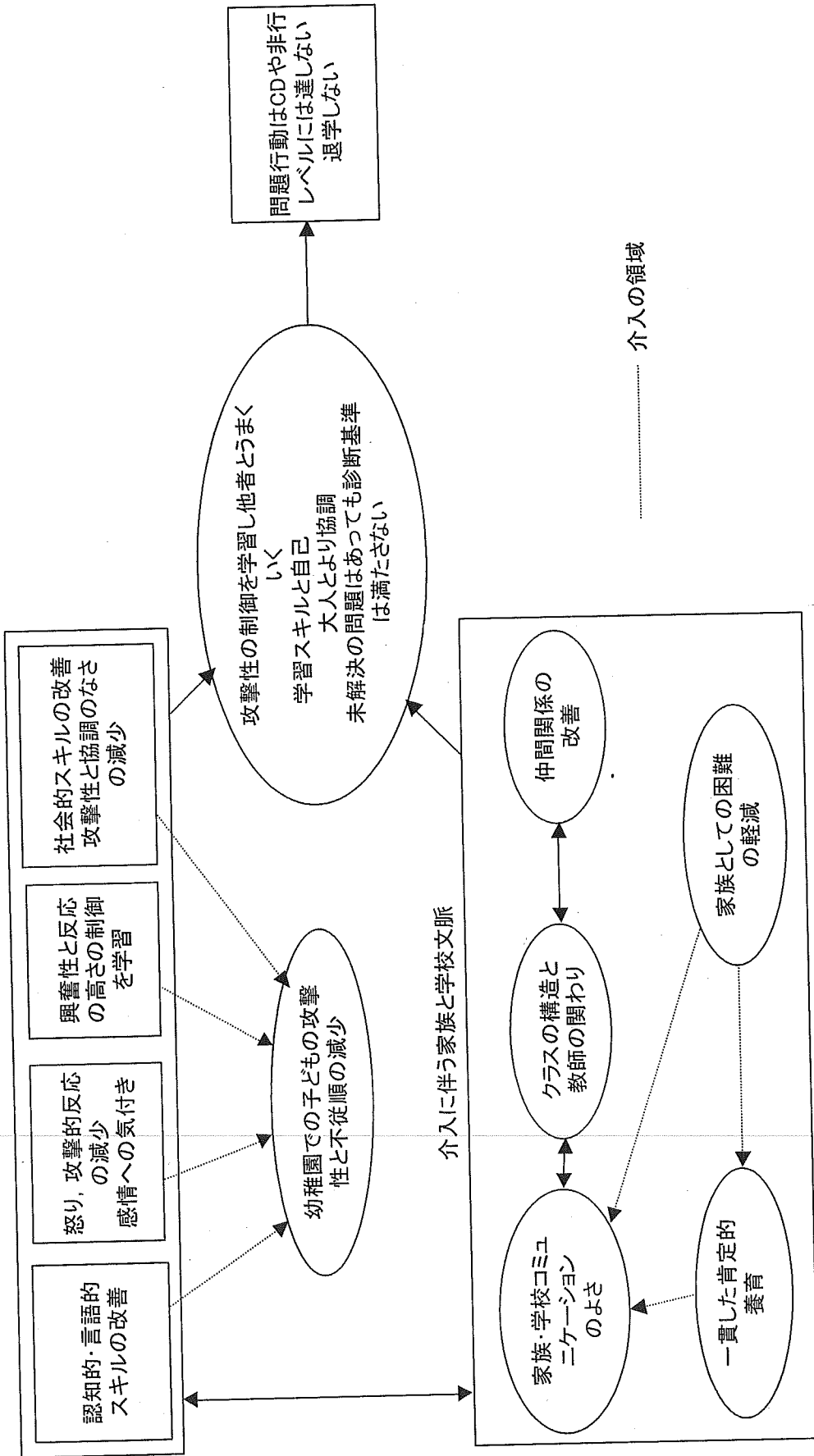
Figure 1 発達精神病理学的視点から見た攻撃性の発達のモデル



就学時 児童期中期 青年期

Figure 2 攻撃性の発達についての介入のターゲットとなりうる内的・外的プロセス

予防的介入



青年期

児童期中期

就学時

Figure 3 攻撃性の発達に関連する内的・外的プロセスへの予防的介入

子ども家庭総合評価票

記入のめやすと一覧表

(全種類共通版)

第1版



厚生労働省 児童自立支援計画研究会

